

高等学校地理歴史科 日本史探究 学習指導案

指導者 久賀 隆之

日 時	令和5年7月20日(木) 第2限 9:40～10:30
場 所	第1社会教室
学年・組	高等学校Ⅱ年 日本史探究ア選択者 (29人)
単 元	古代の国家・社会の変容『日本史探究』(実教出版)
目 標	1. 貴族政治の展開, 平安期の文化, 地方支配の変化や武士の出現などを基に, 律令体制の再編と変容, 古代の社会と文化の変容を理解する。(知識及び技能) 2. 律令体制の崩壊など古代の国家・社会の変容について, 事象の意味や意義, 関係性などを多面的・多角的に考察し, 歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現できている。(思考力, 判断力, 表現力等) 3. ワークシートに自らの考えや他者の意見を記述し, 授業の最後のまとめの際に活用している。(学びに向かう力, 人間性等)

指導計画 (9 時間)

第一次	律令体制再編期の政治と社会	4 時間 (本時 2/4)
第二次	摂関政治の成立と支配体制の転換	4 時間
第三次	国風文化	1 時間

授業について

平成30年に告示された高等学校学習指導要領における「日本史探究」の目標(1)で、「歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付け」て理解することが求められている。これによって、歴史事象を多面的・多角的に考察するために地理学の手法も導入する授業が注目され始めている。このような授業実践は、これまでも地歴融合などと呼ばれて行われてきていた(例えば藤田(2011), 竹島(2013)など)。しかし、これらは特別講義形式の事例であり単元構成に組み込まれたものではないため、「様々な」歴史事象を地理的な見方・考え方でも捉えようとするものとは言い難い。そこで、今年度の日本史探究の授業では日々の授業から地理学の手法を単元構成に組み込みながら、その見方・考え方を働かせることを目標の一つとしている。

本授業では、8世紀末に政府の財政状況が芳しくなかったにもかかわらず、相次いで遷都を行わなければならなかった理由を、政治や慣習の観点(展開①)に加えて、地理的条件(展開②)から考察する。そして、地理的条件について考察する際には長岡京・平安京の地形図を用いる。これらのことによって、長岡京が遷都先に選ばれた理由と、また10年という短い期間ののちに再び遷都された理由について多面的・多角的に考察することをねらいとしている。

題 目 歴史事象を歴史的・地理的に考察する日本史の授業実践
—桓武天皇の遷都政策を事例に—

本時の目標

1. 2回の遷都が行われた理由を政争や地形と関連付けながら理解できる。(知)
2. 治水と流通が両立した都市を目指し、天皇が遷都を行ったことを理解できる。(知)
3. 2回の遷都が行われた理由を地形図や系図、年表など複数の資料に基づいて考え、表現できる。(思)
4. 地形の特徴から都の歴史的空間を判断し、遷都が必要になった理由を表現できる。(思)

本時の評価規準（観点／方法）

1. 2回の遷都が行われた理由を政争や地形と関連付けながら理解できている。（知／ワークシート・定期試験）
2. 治水と流通が両立した都市を目指し、天皇が遷都を行ったことを理解できている。（知／ワークシート）
3. 2回の遷都が行われた理由を、系図や年表などの資料に基づいて考え、表現できている。（思／ワークシート）
4. 地形の特徴から都の歴史的空間を判断し、遷都が必要になった理由を表現できている。（思／ワークシート）

本時の学習指導過程

学習内容	学習活動	指導上の留意点
【導入】	○財政難の状況下において、2回の遷都を行った理由について疑問をもつ。	○前時で扱った桓武天皇による財政再建政策と東北経営、徳政相論を振り返り、費用がかかる遷都を2回行ったことに疑問をもたせる。
MQ.国家にとって大きな負担である「造作」（＝遷都）を、なぜ2回も行ったのか。		
【展開①】 ○「平城京と平安京の違い」と「奈良時代の政争で生じた課題」を関連付け、遷都が必要となった理由を考察する。 ○長岡京から平安京に遷都した理由を年表と家系図から考察する。	○宗教勢力が政治介入した奈良時代の政治を反省し、都から宗教勢力を排除する目的で、都を新たに造営したことを、地図を基に理解する。 ○藤原種継暗殺と、崇りによる桓武天皇の近親者の死去が、2回目の遷都の要因となったことを年表と家系図に基づいて理解する。	○これまでの学習で使用した「奈良時代の政争」のプリントを見るように促す。
【展開②】 ○地形図や出土品などから以下の2点を考察する。 ・長岡京と平安京が都に選ばれた理由 ・長岡京から平安京に遷都した理由	○交通の便が悪い平城京と比較して、大きな河川の水運を利用できるなど交通の便が良い場所に遷都したことを理解する。 ○氾濫平野に位置する長岡京は、洪水の被害が相次いだため、水はけのよい扇状地に位置する平安京の地が選ばれたことを理解する。	○スライド上では、トレース前のカラー版の治水地形分類図を示す。 ◆地形の特徴が出土品や歴史事象とどのように関わっているか理解できている。（知／ワークシート） ◆地形図から都が置かれた場所の特徴を判断し、遷都の決断にどのような影響を与えたか考察できている。（思／ワークシート）
【まとめ】 ○本時のMQに対する答えをまとめる。 ○平安京のその後	○財政難の状況下において、2回の遷都を行った理由をまとめる。	◆桓武天皇が遷都を行った理由について、授業で考察したことをもとにまとめることが出来ている。（思／ワークシート）
参考文献：鈴木久男・西山良平編『古代の都3 恒久の都 平安京』吉川弘文館、2010年。 長岡京市史編さん委員会編『長岡京市史 資料編2』長岡京市役所、1992年。		

＜奈良時代から平安時代へ②＞

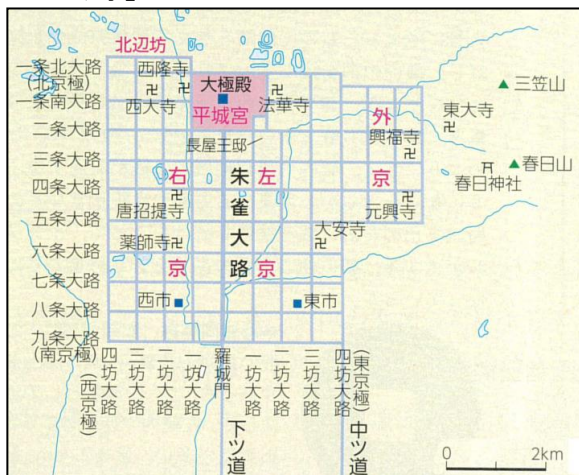
MQ. 国家にとって大きな負担である「造作」(＝)を、なぜ2回も行ったのか。

MA. _____

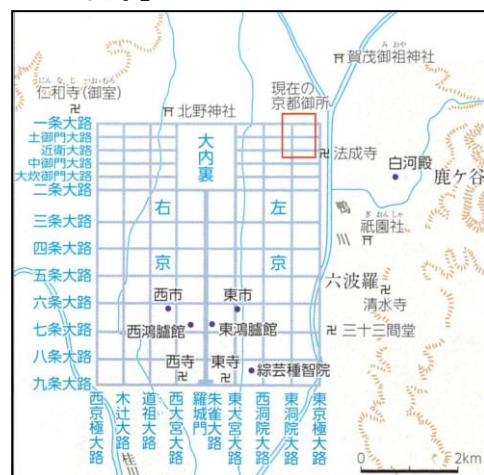
SQ1. 地図から「平城京と平安京の違い」を読み取り、そのような変化が起きた理由を「奈良時代の政争で生じていた問題」とを関連付けて考えよう。

SA1. _____

「平城京」



「平安京」



地図の比較から読み取れること：

その違いがある理由：

SQ2. 784 年に () に遷都したが、10 年後の 794 年には () に遷都した理由を資料①と②を関連付けて、文章にまとめよう。

SA2. _____

資料①「長岡京・平安京に関する年表」			資料②「系図」
年代	月	出来事	
784	6	・ () を造長岡宮使に任命し、造営を開始する。	
	11	・ 桓武天皇が長岡京に移幸する。高野新笠と皇后藤原乙牟漏が長岡宮に移る。	
785	1	・ 造宮資材運搬のため開削をし、主要河川である淀川とその周辺の川を結ぶ。	
	9	・ () が射殺される。 ・ この件に関わったとされた貴族たちが処罰され、皇太子早良親王が乙訓寺に幽閉される。その後、親王は淡路に移送中に死去する。	
787	6	・ 水陸の便によって遷都した旨の詔を出す。	
788		・ 皇后藤原旅子が死去する。	
789		・ 皇太后高野新笠が死去する。	
790		・ 皇后藤原乙牟漏が死去する。	
792	6	・ 皇太子(安殿親王)の病気を ^{ほく} トした(＝占った)ところ早良親王の祟りであると出たため、諸陵頭らを淡路国へ遣わしてその霊をなぐさめる。	
《『長岡京市史 資料編二』、『長岡京市HP』より作成》			

SQ3. 平安京に再度遷都を行ったのはなぜかを、SQ2 とは異なる観点から資料③～⑦を用いて文章にまとめよう。

SA3.

資料③「長岡京跡の発掘調査から判明したこと」

長岡京の大極殿院・朝堂院跡から出土する軒瓦のうち、約 90% が後期難波宮で用いられたものだった。

また、朝堂院の規模はほぼ後期難波宮と同一であった。

(「リーフレット京都 No.26」より作成)

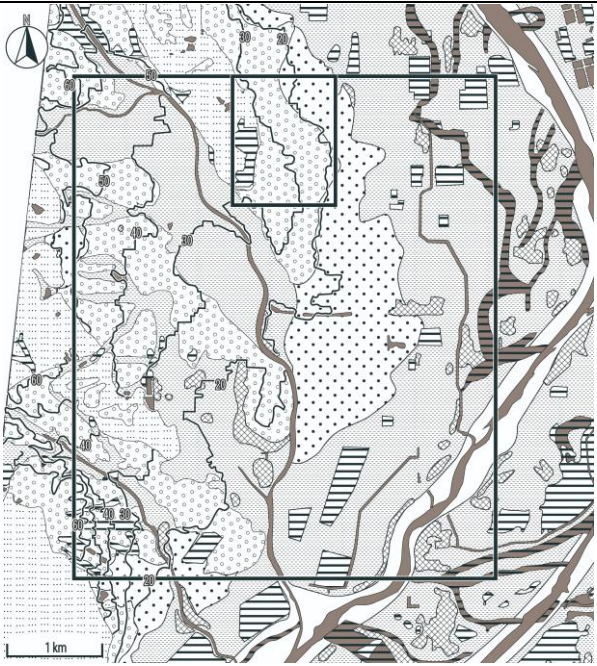
資料④「資料①の年表の続き」

年代	月	出来事
792	6	・雷雨が激しく洪水となり、式部省南門が倒壊する。
	8	・大雨により洪水がおこる。桓武天皇が赤目崎（山背国紀伊郡の高台の場所）に行幸し、洪水被害を視察する。
793		・平安京の造営を開始する。

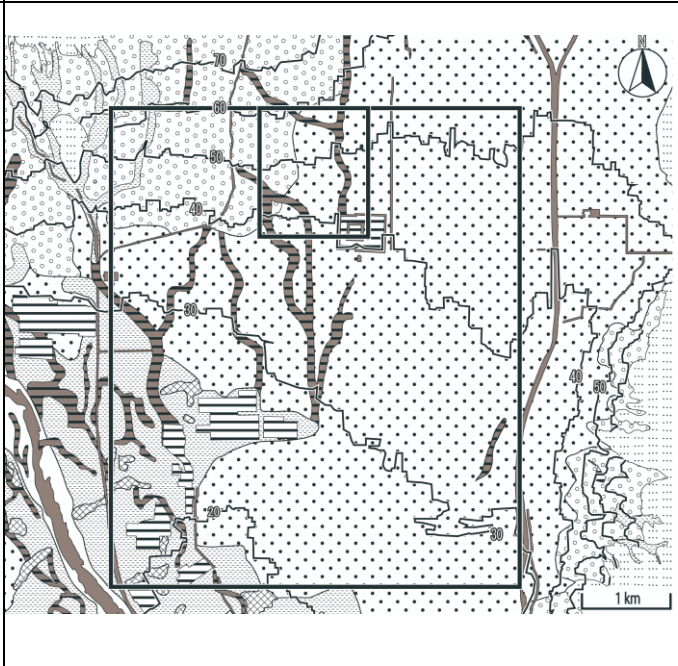
資料⑤「奈良時代・平安時代の京・宮の位置」



資料⑥「長岡京の地形図」



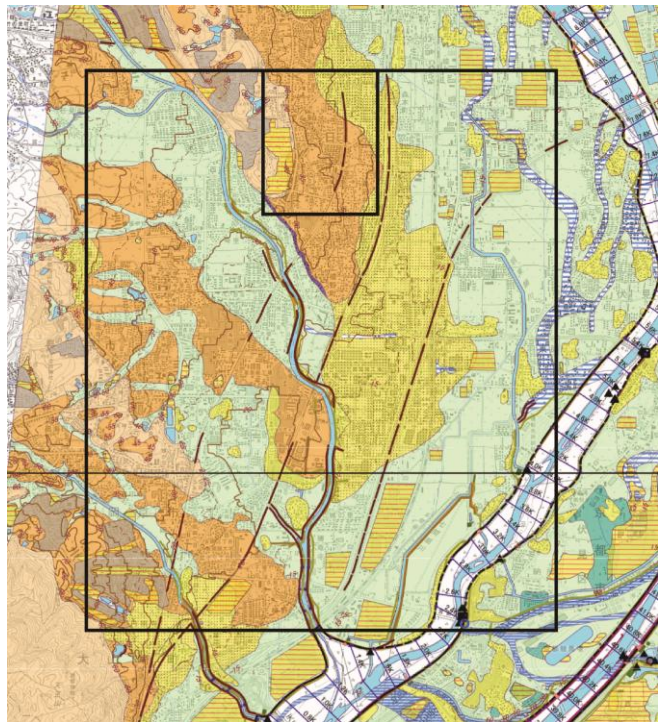
資料⑦「平安京の地形図」



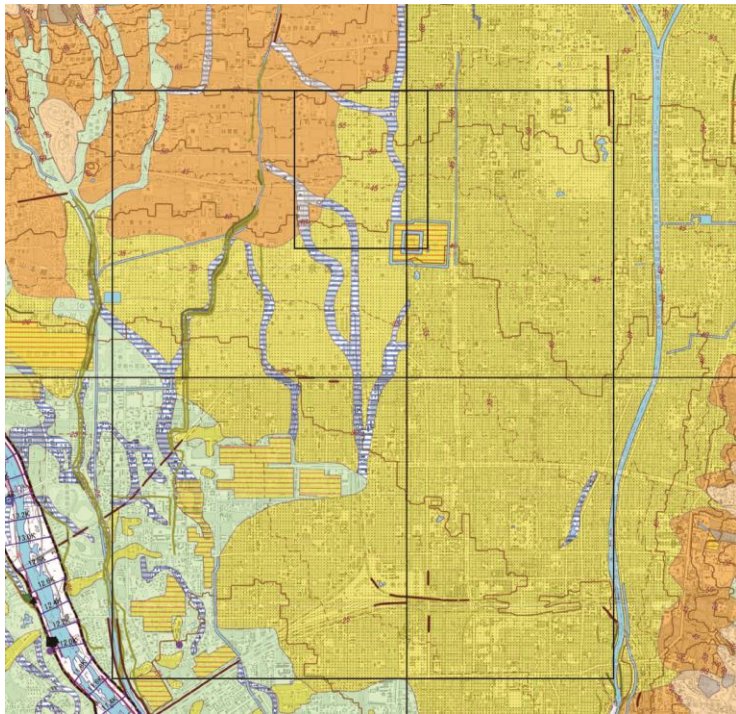
<凡例>

	段丘	周囲より階段状に高くなった平坦な土地。
	扇状地	山地の谷の出口から扇状に広がる緩やかな斜面。水はけのよい砂や礫でできている。
	氾濫平野	洪水で運ばれた砂や泥などによって出来た起伏が小さく、低くて平坦な土地。
	旧河道	かつて河川の流路だった場所で、周囲よりもわずかに低い土地。流路の移動によって河川から切り離されて、その後に砂や泥などで埋められてできる。
	山地	尾根や谷からなる土地や、比較的斜面の急な土地。山がちな古い段丘崖の斜面や火山地を含む。
	埋立地	周囲の地表より高く盛土した土地や、海水面などの水部に土砂を投入して陸地にしたり、谷のような凹地を埋め立てて造成した土地。
	自然堤防	山地、台地の縁などの斜面を切り取りにより造成した土地。
	現河道	調査時において、海や湖沼、河川などの水面である場所。

○長岡京



○平安京



	段丘	周囲より階段状に高くなった平坦な土地。
	扇状地	山地の谷の出口から扇状に広がる緩やかな斜面。水はけのよい砂や礫でできている。
	氾濫平野	洪水で運ばれた砂や泥などによって出来た起伏が小さく、低くて平坦な土地。
	旧河道	かつて河川の流路だった場所で、周囲よりもわずかに低い土地。流路の移動によって河川から切り離されて、その後に砂や泥などで埋められてできる。
	山地	尾根や谷からなる土地や、比較的斜面の急な土地。山がちな古い段丘崖の斜面や火山地を含む。
	埋立地	周囲の地表より高く盛土した土地や、海水面などの水部に土砂を投入して陸地にしたり、谷のような凹地を埋め立てて造成した土地。
	自然堤防	山地、台地の縁などの斜面を切り取りにより造成した土地。
	現河道	調査時において、海や湖沼、河川などの水面である場所。

実践上の留意点

1. 授業説明

本授業では、歴史科目において地理的な見方・考え方を活用することによって、歴史的な見方・考え方を深めることを目的とした。

平成 30 年告示の学習指導要領では、「地理総合」と「歴史総合」が必修科目として位置付けられ、それぞれの資質・能力を育成するために、各教科・科目の見方・考え方を働かせることが目指されるとともに、この資質・能力を「地理探究」「日本史探究」「世界史探究」などの科目でさらに伸ばさせることが示されている。一方で、「地理」と「歴史」の見方・考え方は、その系統科目のみで扱われるわけではない。例えば、「日本史探究」では内容の取扱い(1)のアの解説において、地理的条件と関連付けて歴史事象を多面的・多角的に考察することが求められている（文部科学省 2019）。地理と歴史を関連させるこのような試みは、地歴融合や地歴連携という言葉と共に、これまでに一定の蓄積がある（寺尾;2008、藤田;2011、山本;2015 など）。しかし、その多くの実践が「内容」と「見方・考え方」の融合・連携であり、地理と歴史それぞれの見方・考え方を融合・連携させたものとはなっていない。以上のことから、本授業では、歴史事象に地理的な見方・考え方を働かせることによって、歴史事象を多面的に考察する授業を行った。

授業者は、以下のことに留意して本授業を展開した。まず「国家にとって大きな負担である「造作」（＝遷都）を、なぜ 2 回も行ったのか」を中心発問とし、この発問を「展開①」と「展開②」を通して多面的・多角的に考察することをめざした。「展開①」では、年表と家系図を組み合わせることで、長岡京に遷都した後に桓武天皇の近親者が亡くなっていることを読み解いた。この段階で、「遷都を 2 回行ったのはなぜか」という中心発問に回答することもできる。ただ、この考察のみでは早良親王の恨みによって桓武天皇が 2 度目の遷都を決断したということに留まることになる。しかし、「展開②」を経ることによって遷都政策に異なる評価を与えることができる。「展開②」では、年表や地形図を組み合わせることで、「早良親王の恨み」とは別の理由、すなわち洪水などの水害が起きたことも理由であることを読み解いた。こうして、「展開①」では政治的な要因で遷都を行ったが、「展開②」を経ることによって地理的な要因も遷都の理由だったと、複数の視点から捉えることができるのである。このように地理的な見方・考え方も用いて考察することで、歴史事象によっては多面的な考察が可能となることもあると考えられる。

2. 研究協議より

- ・地理的な見方・考え方を組み込むことによって、今回の単元は中心発問を多角的・多面的に考察できていると思われた。一方で、地理的な見方・考え方を組み込むことは、多くの単元で可能なのか。
- すべての単元に、地理的な見方・考え方を組み込むことができるわけではないと考えている。今回の授業のポイントは、あくまで中心発問「国家にとって大きな負担である「造作」（＝遷都）を、なぜ 2 回も行ったのか」の答えを多面的・多角的に考察するために「地理的な見方・考え方」でも問うことであった。つまり、中心発問が長岡京・平安京という「場所の移動」の理由について考察するというものであったので、「地理的な見方・考え方」によって、より多面的・多角的な考察となったと考えられる。歴史的な見方・考え方の特徴は、「時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながり」（学習指導要領解説）を問うことにある。「推移など」の理由を「場所や分布」などの地理的な見方・考え方でも問うことによって、歴史事象を多面的に捉えることができると思われる。例えば、中世都市の小単元などが挙げられる。
- ・地歴融合・連携を行う授業には、このような授業のほかにもどのような可能性があるか。
- 今回の授業では、日本史の授業に「地理的な見方・考え方」を組み込んでいるが、逆に地理の授業に「歴史的な見方・考え方」を組み込むことで、中心発問をより多面的・多角的に考察する授業も考えられる。